

AWS Summit Japan 2026

統制環境における AWS活用の実践例

株式会社NTTデータ
ソリューション事業本部 クラウド&データセンタ事業部
仁科 智信

仁科 智信

所属

株式会社NTTデータ

ソリューション事業本部 クラウド&データセンタ事業部

業務内容

クラウド案件の開発支援

好きなアマゾン ウェブ サービス (AWS) のサービス

Amazon ECS

AWS Lambda



背景 | 統制環境の必要性

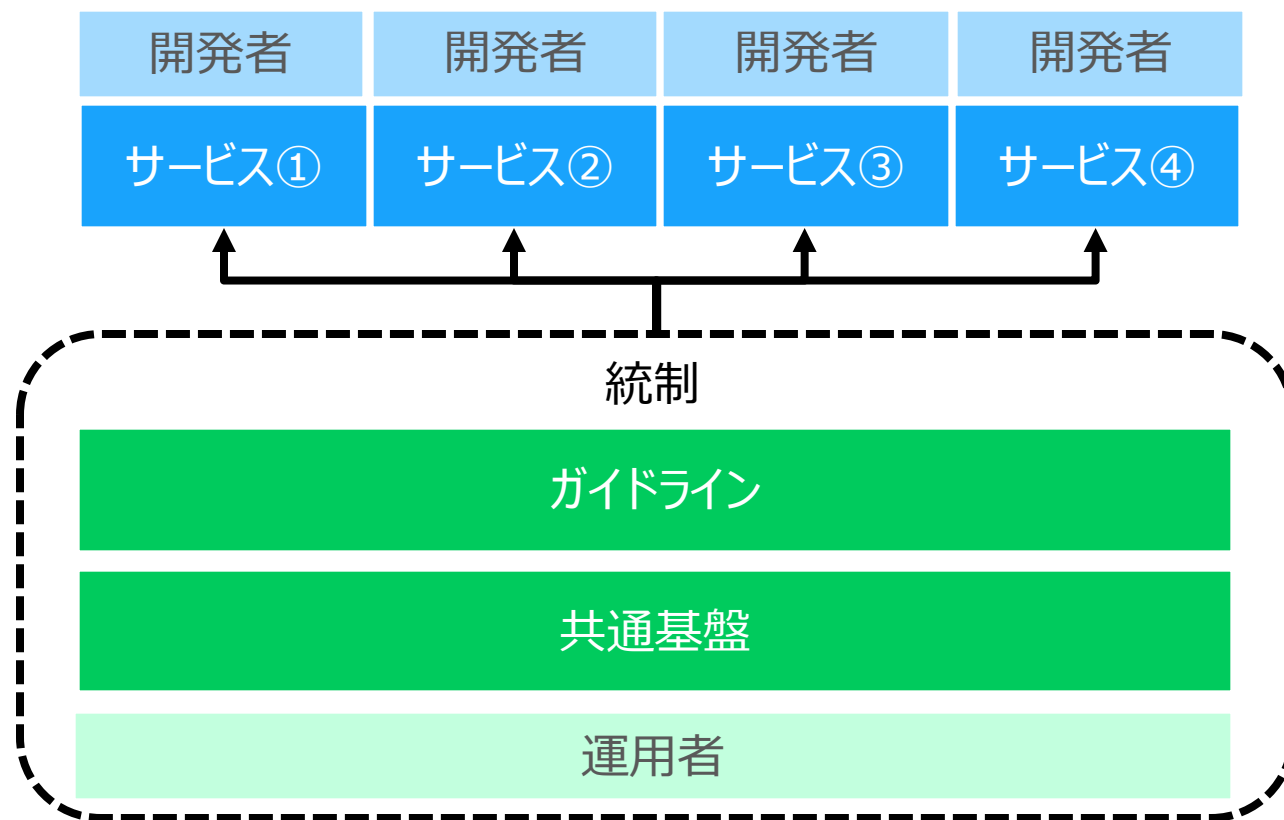
統制環境は、クラウド活用のリスクを抑え、継続的な利用を可能にするために不可欠である

統制環境とは

クラウド利用におけるリスクを抑えつつ、
開発の自由度と統制を両立しながら、継続的な活用を支える仕組み

なぜ必要か

- ・個別最適の積み重ねでは、統制は維持できない
- ・全体としてのリスク管理と継続利用を実現するため



背景 | 現場で起きていること

現場では、開発側・統制側それぞれで課題が発生しやすい

設計

設計で行うこと

- ・利用サービス選定・構成設計（アーキテクチャ）
- ・セキュリティ・可用性などの非機能設計
- ・リソース構成・設定値の設計（IaC設計）

開発

開発で行うこと

- ・IaC実装・環境構築
- ・構築順序・依存関係を考慮したデプロイ
- ・接続確認・テスト

運用（統制環境）

設計・開発の全工程に関与

サービス利用の
承認・申請対応

アカウント・権限・
ネットワーク管理

ガイドライン・
ポリシーの運用・更新

監査・ログ管理・
セキュリティ対応

共通基盤・ガードレールの
維持・改善

問い合わせ・調整・
サポート対応

ガイドライン策定・サービス認定・申請プロセス・制約情報の提供・最新情報の共有

設計フェーズで起きていること

- ・利用できるサービスが不明瞭
- ・申請・制約が設計に織り込まれていない
- ・構築順序・依存関係が未整理
- ・仕様変更・再設計が発生する

開発で起きていること

- ・申請待ちのリードタイムが発生
- ・想定外の制約で構築が進まない
- ・接続確認・テストで制約が発覚
- ・手戻り・再構築が発生する

運用（統制環境）で起きていること

- ・問い合わせ・調整対応の増加
- ・ガイドラインの更新作業が出来ない

解決策 | 開発側

統制環境の制約を事前に把握し、計画・設計に織り込むことで
スムーズな開発・構築を実現する

1 事前に制約を把握する



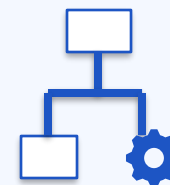
- ・サービス利用可否を確認
- ・作成可/申請の必要なリソースを管理

2 調整・申請を前提に計画する



- ・申請リードタイムを考慮したスケジュールを設計
- ・例外的なサービスを利用するための調整前提で計画

3 制約を踏まえて設計する



- ・利用制限・依存関係を考慮した構成設計
- ・構築順序を意識した開発計画



「把握 → 計画 → 設計」の3ステップを徹底し、統制環境でもスピードと品質を両立する

解決策 | 統制側

開発の手戻りや問い合わせを減らし、スムーズな開発を支えるために
統制情報を「見える化・標準化・最新化」する

1

統制背景を明確にした
ドキュメントを作成



- ・統制の目的・背景・考え方を整理し、ドキュメント化する
- ・開発側が判断できる情報を明確に提供し、問い合わせを削減する

効果：理解の促進・認識齟齬の防止

2

統制環境で実現可能な
処理方式のTips集を作成



- ・制約の中で実現可能な構成・設定・回避策などをTipsとして整理する
- ・よくある問い合わせ内容を分析し、再利用できるナレッジを蓄積する

効果：開発の効率化・手戻りの削減

3

最新のAWSサービスに
追従したガイドライン策定



- ・AWS新サービスの動向を継続的に把握し、利用可否を迅速に反映する
- ・ガイドラインを定期的に見直し、最新状態を維持する

効果：最新技術の活用・競争力の向上



統制情報の整備・共有により、開発側が安心して設計・構築に集中できる環境を実現する

NTTデータの強み

開発・統制の双方での実績に基づき、クラウド活用を前に進める



開発側の強み

構築経験・テンプレートの整備



実績に基づく構築ノウハウの蓄積

多数の AWS 案件で得た構築ノウハウを標準化



構築テンプレート・手順書の整備

再利用可能なテンプレート・手順書を展開し、
効率的な構築を実現



情報共有による品質・生産性の向上

社内共有により、品質を担保しつつ、
生産性高く開発を推進



両輪で支える
統制環境の実現



統制側の強み

CCoEのルール作り・情報整備



CCoEとしてのルール整備

共通基盤のデザインパターンを持ち、
各統制環境に合わせたルールを整備



現場の声を活かしたTips集の作成

開発側からの問い合わせ内容を分析し、
実践的なTips集を作成



アーキテクチャ例の展開

Tips 集や設計パターンをアーキテクチャ例として
開発側へ展開し、再発防止と効率化を実現

開発側・統制側の両輪で統制環境を支え、ビジネス価値の最大化に貢献

事例紹介

事例①

金融系 顧客システム構築

(開発側の取り組み)

短期間の構築を実現するため、設計段階から構築手順を最適化

取り組み内容

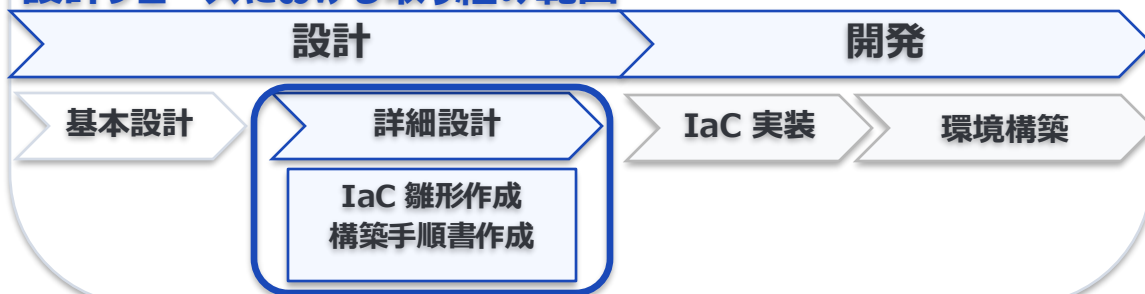
① 設計段階から構築手順を設計

構築順序・依存関係まで考慮することで、
開発工程の手戻りリスクを最小化

② 雛形をテンプレート化し社内で共有

作成した雛形をテンプレート化し、
同じ統制環境で再利用可能に

設計フェーズにおける取り組み範囲



✓ **効果** 手戻りを抑えつつ、短期間での構築を実現

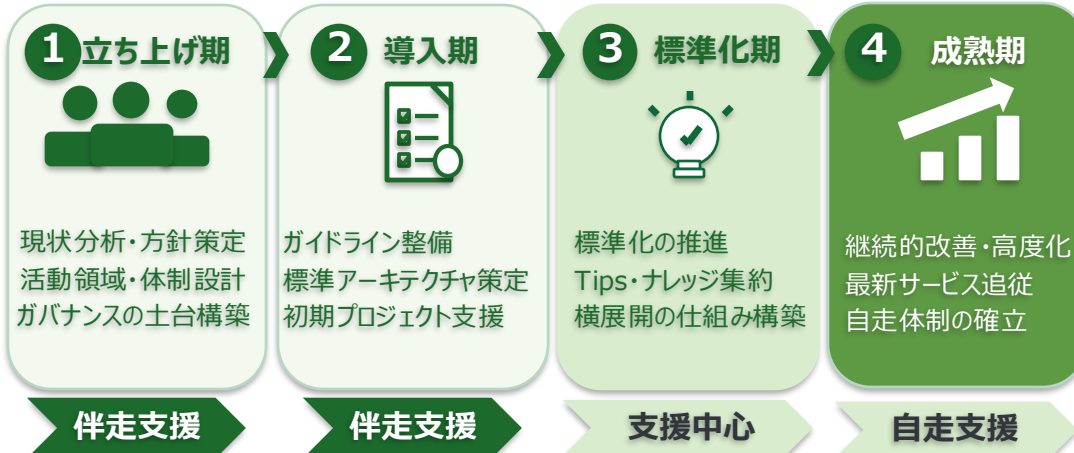
事例②

金融系システムのCCoE支援

(統制側の取り組み)

立ち上げから成熟期まで一貫して支援し、全社的なクラウド活用を推進

取り組み内容



・開発のスムーズな推進を実現
・全社的なクラウド活用を加速

✓ **効果** 統制とスピードを両立する開発基盤を確立

まとめ

統制環境におけるクラウド活用は、
設計・構築の制約や申請対応など、様々な課題が伴います。
その解決には、**開発側と統制側の“両輪”でのアプローチ**が不可欠です。

NTTデータは、**統制対応・標準化支援、CCoE立ち上げ・運営支援**を通じて、
高品質・高生産性なクラウド活用を実現します。

**統制環境でのクラウド活用に課題をお持ちであれば、
ぜひNTTデータにご相談ください。**

